

## 第5回検討会における各委員からの発言

### ○M 委員

特定の方だけでなく、多様な住民の皆様が参加できるような場づくりを日頃から行っていくことが大切であると思っているため、関係団体の各代表の方々にお声かけしながら今後も様々な形で、防災意識向上に取り組んでいきたい。

「自分たちの地域の避難所」というように住民の皆様が思えるような避難所づくりを地域の中で取り組んでいくことが大切だと思う。我が事として避難所のことを考えていけるよう日頃からの活動を今後取り組んでいきたい。

### ○K 委員

自組織で防災の講座を実施しているが、自分事として考えられる、いつ起こるかわからない災害に対して様々なシミュレーションができるような取り組みをしていく必要があると思った。

### ○I 委員

指針本文の（1-5-2）について、災害時は協定先の民間企業と地域住民がお互いに協力する場面もあるため、その連携に関する内容をもう少し明確に記載いただけたらありがたい。

### ○A 委員

1年間で指針が完成したのは、福知山市が過去の大規模な災害による教訓の蓄積と関係機関との強固な連携があつてのことであると思う。

今後は様々なところにアンテナを張って情報があれば提供していき、指針の見直しの際には様々な協力をさせていただきたい。

### ○D 委員

福知山市ではこれまで様々な避難のあり方について取組が進められてきたが、これまでの取組をどうつなげていくか、福知山らしさをどう表現していくかという点が今後の大きなポイントである。

また、被災された方にとってどうかというところを踏まえて、この指針の中身を詰めていけるのではないかと思っている。

### ○O 委員

会議に参加するにあたって、災害時の福祉支援は平時からの備えと人とのつながりというところで機能することを改めて感じた。

また、環境の整備や人員の確保は、平時の中でも課題が残るため、着実に確保していきたいと思う。

## OP 委員

各機関の皆様が各分野の課題を表にして共有できたことは非常に良かった。また、医療施設や福祉施設においては、耐震化だけではなく非常用電源の設置についても検討していただきたい。

## OL 委員

災害時にインフラの供給が途絶えてしまうと復興復旧に影響が出てしまうため、平時から災害に対してどれだけの部分で強化できるかということが重要になってくると思っているため、今後も取り組んでいきたい。

## OJ 委員

福知山市では老朽化した水道管等が多くあるため、上下水道の耐震化等の事前防止対策を推進していただきたい。

## OH 委員

令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、昨年度、府において地震防災対策指針及びプランを改訂したところ。

そのすぐ後に関係機関の皆様の意見を踏まえて市の指針をまとめられたことは、非常に大きな成果であり、当事者意識をもって大規模災害の対応を考えておられることを非常に心強く感じている。

支援のあり方は日々変化するものであるため、見直しの際には連携してより良い計画や施策が実施できるようにしていきたい。

## OF 委員

受援計画について、特に協定の内容やフロー等が明確に記載されているため、災害時は計画に基づいた対応を実施できるのではないかと思っている。

また、マニュアルの策定と併せて定期的な訓練を実施することで実際に実行できるか確認することができるため、より実効性の高いものになるのではないか。

## OQ 委員

指針に記載されているマニュアル等が災害時に実際に働くのかを今後時間をかけて実行する必要がある。

## ON 委員

能登半島地震の際に、復旧資材を置いておく用地が確保できなかつたことと全国から集まつてくる支援者の宿泊施設の確保が難しかつたという課題があつた。2点に対して福知山市近郊で大規模な災害が発生した際には協力を願いしたい。

## OB 委員

網羅的かつ委員の皆様に多くの意見をいただいたため、福知山市の特徴とこれまでの水害対応の経験が活かされたものになっていると思う。

また、数値目標を定めているところもあるため、進捗状況を確認し、うまくいっていないところは改善していくという取組を今後進めていく必要がある。